

第25回・第3期第6回宝塚市協働のまちづくり促進委員会 会議録	
開催日時	平成30年4月26日(木) 18:30~20:40
開催場所	宝塚市役所3階 特別会議室
次 第	1 開 会 2 辞令の交付 3 新委員及び事務局の紹介 4 議事録の確認 5 議 事 (1) 協働の仕組みづくり検討部会作業班からの進捗報告 (2) 見直しガイドライン完成までのスケジュール 6 その他 (1) 花と緑のフェスティバルについて 7 閉会
出席委員	久委員長、足立委員、中山委員、成瀬委員、飯室委員、田中委員、加藤委員、檜垣委員、光村委員、野田委員、藤本委員、古村委員、喜多委員、平石委員、石谷委員、福永委員、立花委員
開催形態	公開(傍聴人6)、関西総合研究所3人、OM環境計画研究所1人、研修3人

1 開会

第25回・第3期第6回宝塚市協働のまちづくり促進委員会の開会。

事務局から、本日の出席者は17人出席、欠席者は2人であること、宝塚市協働のまちづくり促進委員会規則第5条第2項に規定する過半数の出席要件を満たしているため、会議が成立していること、及び傍聴希望者は2人であることを報告した。

2 新委員及び事務局の紹介(略)

3 議事録の確認

協働の仕組みづくり検討部会(第23回・第3期第4回)議事録の内容について、7ページの発言者ユ)の「1暮らし」について「一人暮らし」の間違いではないかと指摘があった。

協働の仕組みづくり検討部会(第24回・第3期第5回)議事録の内容については承認された。

4 議事

(1) 協働の仕組みづくり検討部会作業班からの進捗報告

ア(ガイドライン作業班から説明)前回の促進委員会から後に3回のワーキングを開催した。前回に比べて後半の記述を厚くしている。また目次が大きく変わっているので前回と今回の訂正内容の対照表を配布している。デザインはこの後進めるので見やすくなると思うが、

これが最終提案ということではない。本日は本文の内容のみ検討する。主な変更点は次の通り。

- ・ p 1 施策という言葉が何度か出てくるが、作業班の意見としてカタイので削除することにした。また、計画が必要な理由は2つあることがわかりやすいように囲みをつけている。ピクトグラムは手描きのイラストに変更している。地域の将来像、基本目標、具体的な取り組みの3つの柱として図を提示している。振り返りを5年後としていたのが、「5年経つ前に」と説明している。

- ・ p 2 「まち協ってなあに」のコラムについて、ガイドラインはまち協の関係者が読むものなので必要ないと判断して削除した。

- ・ p 3 前回の提案を反映させて修正している。説明の絵を変更している。「図中の「地域（まち）」という言葉はおかしいということで「意見や思い」に変更した。また期間については、並びを入れ替え、また4つめの「・」を追加し、市民だけがやることは、総計にリンクしなくてもまとまればやればよいということで、平成32年からでもできることについては取り組むことを記載した。

- ・ p 4 フロー図について、前半の流れが1本だったものを2つに分ける流れに変更した。具体的な取り組みについて、2つめの「・」を追加した。まちづくり計画の確認や現状の把握は、やれるところはやってねということだったので取り組んでいるまち協があるが、ガイドラインが出るまで待っているところもある。ガイドライン待ちの地域も、すでに取り組んでいる地域も、計画の見直しをしたところも、していないところも、どちらでもあてはまるような説明にしている。他のまち協とも論議して…」という一文は削除した。また、右の縦の枠で「室長級が参加する」という表現は、「行政職員」に変更したい。

- ・ p 5 現状を把握するところで、2つの「・」を追加した。絵は削除して、具体的な内容は、資料編を参照するようにして全体をすっきりさせた。また、まちキョンのイラストを入れてまちキョンがつぶやくようなあしらいにしている。②は、地域の将来像と基本目標をはっきりさせるという内容を追加した。

- ・ p 6 絵を変更した。人と組織の両方を書いていたがごちゃごちゃしていたので、組織だけにすっきりさせた。分野ごとに意見をまとめて全体にまとめていくような絵にした。④は別の箇所 p 8 にあったものを、このページにまとめた。

- ・ p 7 将来像は10年、基本目標は10年、具体的な取り組みは1～5年と年数を明記した。6次総合計画の懇話会では、総合計画を5年にするか10年にするか、市長任期にあわせて4年、12年という自治体もあり結論が出ていない。最終的にはここの調整になるため、今後の調整となる。5年10年というのは総計がそうなる前提なので、整合した。絵の説明には、下部に「毎年評価を実施する」と説明を加えた。

- ・ p 8 内容は同じだが、①、②、③をつけてはっきりさせた。前は「見守り活動」で切っていたが、「①見守り活動を…」と「……」をつけることで、文章として続きが入ることをイメージできるようにした。

- ・ p 9 前回 p 7 にあった表は、意見を受けて縦型から横型に変更した。

- ・ p 10 スケジュールと役割分担の見出しの下は、図の解説をしている。図がよりわかりやすいように、領域の説明についてテキストを加えた。図は、ピンクのところと①、②、③、

④がくっついているとわかりにくいので、離して図示している。

・ p 1 1 計画書のまとめ方については、前回ふれていなかったが、作業班からフォーマットの統一を提案したい。前回のガイドラインはフォーマットは指定していないので、まちによって色々なまとめ方をした。行政も文章を拾うのが大変だったと思う。行政が取り込みやすいし、行政と調整するとき具体的な取り組み何番と番号を振ると特定しやすいだろう。まち協の比較もやりやすい。地域ごとにバラバラになるのを避けるためにフォーマットを作りExcelやWordのデータで配布する。フォーマットに具体例を入れるかどうかは検討したい。統一フォーマットはまち協のポータルサイトにはりつけてもよいかもしれない。

・ p 1 2、p 1 3 「まちづくり計画を知らせましょう」「定期的に取り組み状況を確認しましょう」は、新規に追加した。「・」の3つめ、具体的な取り組みを実行したかどうかの評価だけでなく、将来像、基本目標に向けた効果成果が得られたかどうかを検証することを強調している。

・資料編はわかる範囲で圧縮してコンパクトにまとめた。また、エイジフレンドリーシティを重視すべく、超高齢化社会への対応が進んでいるので、そこも、論議していきたい。

イ（会長）前回に比べて後半を書き加えていただいたと思います。ご質問、ご意見をお願いします。

ウ 前回よりわかりやすくなった。p 3の計画期間の部分、計画はH33～の計画だが市民主体の取り組みはH32から実施していいというのは、まち協によって33年から始めるところもあるだろうが、計画スケジュールの最初の年月が統一フォーマットで決まっているなら、いつが1年目かわからないのではないか。フォーマットに年月を入れてはどうか。

エ p 4に示しているように、計画はH32年3月に完成する予定と書いている。協働じゃなくてもできるものはやるという意味で、必ずやらなきゃいけないということではない。H33年からの計画では完成から1年あくので、H32年から取り組む地域はやってもいいという意味。

オ 読んだ人が理解できるかどうか。

カ（会長）作業班に持ち帰ってもらいたい。フォーマットに年号を入れると、わかりやすいかもしれない。そこも含めて協議してほしい。

キ 根本的な話になるが、自分の地域で進め方を検討している中で、若い人を検討メンバーに入れたいという声が出た。私もそうだが、若い人は配られたもので初めて現行計画を知った。現行の計画を見直す時に、古いものにこだわるよりも、若い人が新たに作った方がいいという意見がある。今のメンバーのうち、前回計画づくりに関わった人は2人しかいない。現行計画にこだわる必要はなく、平成30年度版計画として新しいものを作った方がいいという意見。

ク（会長）そういう地域があってもいい。見直す時に、全部リセットしようという確認のもとにスタートすればよい。それもある意味見直しになる。もう一度現行計画を読み直してスタートしてもいい。いろんなやり方があっていいと思う。

ケ 5次総合計画後期で、見直しを盛り込んだ。ある地域では毎年見直しを行っている。うちの地域も見直しをしながら活動しているが、計画に沿っているかはあまり意識していない。いろんなやり方をしているのが実情でまちによって違う。4次総合計画は15年、5

次総合計画後期は3つに分けた計画を作って見直した。うちの地域の計画は見直したのでH22年版になっており、それぞれ温度差がある。知らない人は取り組んでいないが、見直しをやっているところもある。ガラガラポンがいいという意見もあったが、それはできないし、現行計画は生きているので。まちによって実体として忘れていた地域は、新たに作ればよい。見直しではなく作るガイドラインを考えないといけない。現状にあっていれば、すぐにできる。20のまち協を整理していたら、やはり、ガイドラインは見直しを強調した方がよい。

コ ガイドラインは問題ない。我々のようなまち協では見直しというと、前のものにこだわらないとだめだと感じる。10年も経っていたら若い人にまかせて作るほうがよいという意見が強かった。

サ それも見直すことになるから、それでいい。

シ ある地域では会長が20年同じ人なので、現行計画策定の経過からずっと頭に入っている。役員が今の状況を把握できる。しかし会長が替わると考え方も変わる。私は作業班で、ルーチン化して毎年見直していけば、引き継ぎになると思うという意見を言った。そういう意味でPDCAにもつながる。ルーチン化できる方法を考えるといい。人がかわれば考え方が変わるのはいしょうがない。

ス（会長）総会事項にして、毎年総会で、計画を読み合わせしてもよい。プロセスもいろいろあってもいい。20の協議会は、ガイドラインを目安にするが、展開の仕方や計画のバリエーションはいろいろだろう。

セ 今、地域は宝塚市から2つの補助金を受けている。1つはまちづくり計画に基づいたものであり、今の話を聞くと、計画を見ていないかという疑問がある。

ソ 計画は見ていない。うちの地区では、計画には73の具体的な取り組み計画があがっている。まったくやっていないわけではない。見直しの結果、このうち39項目53%は未着手、7項目10%が着手予定、26項目36%が実施中、1項目1%が完了となっている。半分はできていないということ。計画を毎年見直ししているのではなく、流れの中で毎年やっていることをやろうということできている。

タ お金をもらって計画に基づいた活動するということで補助金が出ている。元は計画に沿った取り組みで、それを続けて行くかということで毎年取り組まれているので、今やっているものも、残るものとやめるものが出てくると思うが、ある程度進められていると思う。ガラガラポンではない。残るものもあるだろう。

チ 73のうち、市の補助金ではできないものもある。会社的な考え方で予算をつければできるだろうが。できるものだけやるかたちになる。

ツ 見直しの根本はそこにある。市の補助金だけに頼らず取り組みを進めていくということ。若い人の考えも入れた中で、やりたいことについて行政とつめていくことも出てくる。

テ ということは、見直しを始めているということ。50%のやっていないことを、どうしていくかを考えるのが見直し。

ト 若い人にフレッシュな頭で考えさせる方がよいという意見が出ている。

- ナ 若い人は知らなかったとしても、20年近く組織としてやってきた結果があるわけで、それを事実として認めることが見直し。やり残したこと、やっていないことを作り替えてくれということ。実体として、すでに見直しをしているということ。
- ニ 難しい。みんな、そのようには考えない。簡単にいうと、前の計画を見せてそこからスタートするのか、ゼロから考えるのか。古いものは見せるなという意見もある。
- ヌ（会長）参考にするしないではなく、それも1つの考え方。とくに若い人がしがらみなく、やる気を出すために、リセットしてもいい。今の課題を出し合って、解決方法をあらためて考えてみてもいい。プロセスがきちんとしていけば、前の計画ががらっと変わってもいい。
- ネ 見直しにこだわらず、やるべきなのは、自分達のまちを良くすることを進めることで、それがまちづくりにつながればよいと思う。20のまち協がこれにそぐうのは難しいが、基本となるものはあっても、それぞれがどう考えるかが大事。やりやすい方法でよい。無茶苦茶なことになっていなければよい。
- ノ 真面目にやってるので、無茶苦茶にはならない。年齢の高い人は、前のものを手直しするのがいいと言うし、若い人はゼロからがいいと言う。総合検討会を作ってまとめたいて考えている。
- ハ 歴史でも何でも、過去をなかったことにはできない。今までやってきたことがあるので現在がある。
- ヒ 今、若い人でまとめようとしている。それを、年寄りも入った検討会を作ってまとめてもらう。発想は若い人でやろうとしている。
- フ ガイドラインでそれを提案している。意見を聞く、まとめるの2つの段階がある。まとめる時にはみんなが集まる。2つの段階を分けましょうと。
- ヘ 今の計画をみんなに見せようとしたら、若い人はいらなと言った。
- ホ（会長）私の経験でいうと、新しくつくってみても、現行と半分くらいは一緒になるかもしれない。
- マ ベースは大事。若い人の意見を採り入れながら。流れや環境は変化するので。高齢の人の意見も大事。いろんな世代の声を入れるとよい。
- ミ 若い人がコミュニティの活動に入って、意見を述べるのはとてもよい。若手の育成は課題。どんどん意見を聞いて何を言ってもいいという雰囲気ができれば。世代が変わっても課題は同じじゃないかなと思う。
- ム 若い人がほんとうに集まってくれるかどうか心配。
- メ（会長）若手がワークショップをやっていたのが、だんだん来なくなった。なぜかという、あそこで言っても仕方ない。とりあげてくれないということだった。うまく雰囲気を作らないといけない。意見を出しても反映されないというのではそっぽを向かれる。運営は慎重に。
- モ 若い世代というのは何歳からかと考えながら聞いていた。去年の夏祭りの実行委員会で、おもしろい意見が出た。学校敷地内は禁煙にしたが、正門の外には10年以上前の実行委員会で決めて、入口には金バケツに水を入れて吸い殻入れを置いた。青少年健全育

成の観点から置くなという意見もあった。そうは言っても、タバコを吸いながら来る人もいる。吸い殻入れがなかったらどうするのかという意見もあった。それを学校に入れると迷惑になる。どちらの意見もひかない。去年、実行委員会でPTAから質問が出た。「なぜ灰皿をおくのか、おかしい」と。子どもの受動喫煙を考えると、灰皿を置くのがおかしいという意見だった。十数年前から何度かその話をしていたが、最近では出ていなかった。昔2つの意見をみんなで考えて灰皿を置くことになったと説明した。とくに、最近では伊丹や西宮から来る人がいて、隣の小学校から賑やかだと来る人が増えたので対応したと説明した。そうだったのか、ここで吸っていいという、喫煙を推奨するのではなく、吸い殻を中に入れない、まわりを汚さないためと説明した。警察ではないので取り締まることはできないので、それを置くのが精一杯だと。わかってもらえて、意味をちゃんと説明すると言ってもらえた。なんでそうなのかという、理由や判断を伝えた上で一緒に考えてもらうことが大事。そういうことが見直しなのではないか。

ヤ（会長）率直な意見をぶつけあえる雰囲気を作っていけるかが重要。ガイドラインに書くかどうかだが、いろんな方に集まってもらう時、今まではグループの代表制をしていたが、こういう話し合いは、それよりバランスを気にしてほしい。男女や世代もあるが、重要なのは意見のバランス。同じような意見の人ばかり集まらない。別の意見も入ってもらって議論の中で答を出していくのが重要。ワークショップを開く、委員会を作る時に、メンバー構成のバランスをよくすること。そのバランスが崩れると答えもバランスが崩れるし、そうすると反対意見が出てきて混乱する。最初からいろんな方にお声をかけておいた方がうまくいく。

ユ p 3に、計画案をまとめるというところがある。いろんな意見を聞くときいている。まち協が中心となっていていろんな意見をまとめていくが、これを機会にいろんな人に入ってもらうのがいいというのは、まさにそのことを言っている。具体的なやり方は、まちによりそれぞれだろう。

ヨ（会長）豊中駅前のまちづくりの事例を紹介する。大池小学校というところがある。市営駐車場が取れなくて小学校のすぐそばに地下駐車場を作る計画が出た。PTAが安全が保てないと反対して、まち協事務局長に「反対か、賛成か」と詰め寄った。協議会としてはどうなのかと。その時、事務局長の答が見事だった。「協議会は賛成でも反対でもない。議論するための場。そこで賛成とか反対とかいうと、どっちかの人が来なくなる」と答え、両方の人がいて中立だということを説明した。ひとつの色を出すと、別の人が参加できない。とくにこの2年は自由な雰囲気を作ってほしい。協議会がああだこうだと言わない方が、しばらくはいい。お金の問題は重要。地域活動を考える時、お金からではなく、まず活動から考えること。それが実現するためにはどれくらいお金がかかるという考え方でなく、足りないからあきらめるのではなく、足りない時はどう工面するかを考える。最近ではコミュニティビジネスなど、お金をもらいながら事業をまわすやり方もある。稼ぎながら事業する方法もある。いろんな財団の補助金を申請する方法もある。あるいはクラウドファンディングの仕組みもある。NPOの世界ではファンドレイジングの講座も開催されているので、市役所のお金だけでなく、いろんなお金を生み出す方法も考

える。何が必要かの後に、お金のことを考えてほしい。

ラ 今日では簡単で読みやすい計画を作るためのガイドラインの議論。行政計画に落とし込みやすいものにするか。行政計画にリンクしていく。温度差があるまち協どう提案するかということ。その先、どう説得するかは、議題から外れるんじゃないか。

リ p12に、「なぜ知らせるのか」をきちんと書いておいた方がいい。「計画の実現のために多くの人に参加してもらうため」「計画に多くの人々の参加を求めるため」など、参加してもらうために知らせるということを書いた方がいい。

ル（会長）「なぜ」というのをつけ加える。他はよろしいですか。それでは、おおむねこれでいいということですので、あとは事務局で微修正してください。

（2）見直しガイドライン完成までのスケジュール

市（別紙資料の説明）本日、ガイドライン案を確認しています。5月9日の代表者交流会でガイドライン案を説明し、各まち協で意見を集約してもらう。5月25日を締め切りとして地域の意見を伺いたい。それを受けて、5月28日の促進委員会で審議したい。審議はパブリックコメントのような扱いで意見を一覧表にして提示するので、この意見は採り入れる、ガイドラインに反映するのは難しいなど検討し、6月7日の仕組みづくり部会で意見の内容とガイドラインの最終版を確認する。これを6月13日の代表者交流会で案内する。各まち協では総会があるので、6月が平成30年度の代表者交流会のスタートとなるので、ここで完成原稿を提示したい。あわせて、6月末に地域にガイドラインを提供することをアナウンスする。

レ 今日出た意見の他、エイジフレンドリーの関係もあり、まだ決められないこともある。5月28日の全体会の直前などに作業班をした方がいいかもしれない。行政だけでは意見が出た場合処理がやりきれないのではないかと。作業班の中でも論議したが、社会福祉協議会が計画見直しに参加するという声も出ているし、それも含めてもう一度整理がいるだろう。

ロ 事務局としてはありがたい。ぜひお願いしたい。

ワ（会長）その場合、スケジュールは提案通りでOKか。5月25日17時締切で。

市 5月28日は意見をそのまま紹介する。最終日にどっとくれば大変かもしれないが、28日は寄せられた意見をそのまま提示するだけだが、大変なのはその後、仕組みづくり部会までだろう。

ヲ（会長）土日の作業が入らないのならいい。

ン もっと早くならないのか。7月になるとまつりなど行事がたくさんある。6月下旬の配布では遅いので、6月には見直しをキックオフしたい。9月に入ると半年ロスになる。

市 意見を出す期間が短くなる。

市 ご提案もありがたいが、もっと期間がほしいというまち協もある。ある程度かたまった内容を提示できるのなら。

ア 正式でなくていいので、6月上旬にほしい。

市 大幅な修正は出ないだろうから、微修正はあるという前提で訂正前のものを渡せるだろう。

イ 案はよくできていると思うので、それでいいと思う。

ウ 最終的にはH32年3月にできればよいので。

- エ 今回のスタッフはやる気があるので、早くしてほしい。
- オ 5月の代表者交流会に出るものをベースにそれぞれのまち協でスタートしてよいのではないか。大幅修正はないのだから、それぞれの地域の事情にあわせて。7月まで待つ必要はない。
- カ 市が資料を用意しないとイケないので。まち協の事情だけでは。そこも大事なところ。
- キ (会長) 今日のご意見では、ほぼOKなので、このまま出してもいいのではないか。早くやりたいなら、今の段階で渡してもよい。変わるとすれば、まち協の声で変わる可能性はあるが。

5 その他

(1) 花と緑のフェスティバルについて

- 市 促進委員会と市民協働推進課で参加した。事例集が完成したのでPRができた。きずなの家のパネル展示をした。市民協働推進課の紹介もできた。ぬりえ、工作体験は子ども達が入りきれなくなるほど盛況だった。まちキョンは好評で色鉛筆も喜ばれた。アンケートは資料の通り。初日119人、2日目は145人から回答があった。協働を知る良いきっかけになったという声もあった。企画から出展まで協働できたのはよかった。ありがとうございました。
- ク (会長) ご参加いただいた方からどうぞ。
- ケ 塗り絵コーナーで色鉛筆が少なかった。もっとたくさん用意した方がいい。
- コ 暑かった。ジャンパーは効いていた。感想の1ページ目にあるが、みんな一生懸命でびっくりしたとある。市職員が客引きをされていて、腰にまいてもジャンパーは暑かったが、楽しげにやっていたのがよかった。他のブースより10倍以上人が集まっていた。子どもを遊ばせて親をつっているという声もあったが、アンケートを見ると成果があったと思う。
- サ 子どもが考えた以上にたくさん来たので、親も集まった。その結果協働って何だろうと理解してもらえた。
- 市 委員の皆様が疲弊して来年もう行かないとなったらどうしようと心配していたが、ありがたい。
- シ まちキョンの顔だしパネルで顔が取れないハプニングがあった。活動的だった。子どもが楽しんでいて。アンケート用紙もすぐにいっぱいになった。
- ス 去年はビスコが好評だったが、アレルギーを気にしてやめた。それでも缶バッジや色鉛筆、ティッシュが良かった。事例集で関心をもって、「私たちも協働やってたんだ」と納得していた人もいた。少しずつ知ることにつながると思う。子どもが楽しめるコーナーが良かったという意見が多いが、自分のこととしてつなげていける声もあった。委員は交代しながらやったが、職員は休みなしで大変だったと思う。
- セ 子どもが多く来てよかった。とくに、市民にとっては協働はなじみがないので、できるだけ親御さんには説明した。事例集も読んでいただいて、年々、協働をアピールしたいし、できてきたと思う。こういう行事は続けていくのが肝心。来年再来年もやって知ってもらおうのいいと思う。
- ソ (会長) 缶バッジは市民協働推進課でもらえるのか？市民にはどう伝えるのか？

- 市 色鉛筆もまだある。イベントで配る予定をしているので、ご自由にお取り下さいということにはなっていない。
- タ (会長) 「お近くのまち協でお渡しできます」とすれば、まち協に足を運ぶきっかけになるのでは。
- チ いろんな行事をするので、まち協のイベントで配るのもよい。
- ツ まちキョンの人形を早く作ってほしい。
- 市 フェスティバル当日にも意見をいただいた。各まち協に配ってほしいと意見があるが、今は職員の手作りなので。
- テ ご苦労なのだが、行事の時に使いたい。
- 市 同じものではないが、目立つものを何か作りたい。
- ト 今のものが多い。
- ナ (会長) 担当課で作らなくても、キットを渡して地域で作ってもらえばよい。
- ニ それでよい。
- ヌ 貸出はできるのか。
- 市 できる。
- ネ (会長) 地域でボードを買ってもらい、プリントを渡せばよい。
- ノ 3Dプリンターはないのか。
- 市 ない。
- ハ グッズはいくつ残っているのか。ミニ運動会でも300人は来る。各地域に提供すればかなりの数になる。
- 市 在庫を確認する。今回たくさん出たので。
- ヒ オープンキャンパスでいろんなイベントをするが、近大文芸学部では参加者にワークショップで缶バッジを作らせて持って帰ってもらう。
- フ 公民館や公的なところに先ず置く。イベントだと、かなりの数が出るだろう。
- へ 材料費は補助金をあてて、ブースに来てもらって、作って持って帰ってもらうとよい。
- ホ 早くほしい。
- マ 尼信がバッジを作ってくれる。まち協で頼めば来てくれるかもしれない。CSRに熱心だ。
- ミ (会長) 近くの支店に飛び込めばよい。
- ム 缶バッジはいろんな企業がやっている。
- 市 まちキョンはフリーなので、サイトからダウンロードして使ってもらえる。
- メ 売ってはまずいのか。
- 市 使用のルールがある。営利目的はだめ。
- モ (会長) 誰かYouTubeで、作り方を流せばよい。

(2) 補助金一覧表

- 市 (宝塚NPOセンター) NPOセンターに委託した補助金一覧ができています。民間も公的なものもあり、29年度はすでに締切のものもあるが、例年同時期に募集しているので古くても目安になる。今年度は秋に平成30年版を配布したい。市のホームページからもダウンロードできるようになっている。新着情報にあがっている。

ヤ 説明の通りだが、コラムがいくつかある。助成金とはどういうものか、書き方のコツなど。助成金情報は更新されるが、コラムはずっと使える基本的なことを書いているので読んでほしい。わからないことは問い合わせてもらえば説明する。

(3) 宝塚NPOセンターからの案内

ユ (宝塚NPOセンター) ちらしを配布している。花と緑のフェスティバルで人が集まっていたという感想があったが、ガイドラインも、そういうものになればよいと思った。会議の中で、若い人が来た時にどうしても意見を上からかぶせてしまうことがあるので、会議運営の講座を企画している。ファシリテーターセミナーとして夜の講座、30名定員。活かせるとまち協の会議のやり方も変わると思う。ホワイトボードミーティングの進め方は企画会議などで活用できる。もう一つが事務効率アップのための進捗管理に使える、kintoneのグループウェアを使って進捗管理をするやり方。この活用のコツを紹介する。夕方の開催。男女共同参画センターで。

ラ (会長) 情報共有ができる団体は、会議をして、次の日程を決める時に、ネット上のカレンダーを見てその場で調整できるようになる。ネット上で共有できるものを何人かが使えると他の団体情報も活用しながら会議が進められるようになるので参考になる。尼崎市では市職員が自主勉強会でホワイトボード活用の学習をやっており若手を中心に協働を道具も使いながらやっていきたいという意識が高まってきたということ。研修ではなく時間外に研究会が立ち上がっている。

(4) 小浜宿まつり報告

盛況であった。

(5) 今後の予定

5月15日は休会とする。次回は5月28日。

5 福永委員の紹介

6 閉会